

東京都立図書館協議会 第30期第7回定例会議事録

令和5年3月24日（金）
オンライン開催（都立中央図書館4階第3研修室）
午前10時00分～午前10時36分

出席者名簿

委 員

小田光宏委員 関根千佳委員
新居みどり委員 松本直樹委員
和気尚美委員 赤羽淳子委員
橘雅子委員

(欠席者)

小林正基委員
五十嵐俊子委員
古屋真宏委員
植村八潮委員
久我尚子委員

都立図書館幹部職員

管理部長 サービス部長

総務課長 多摩図書館長 企画経営課長 資料管理課長 情報サービス課長

事務局

企画経営課課長代理 企画経営課企画経営総括担当 企画経営課企画経営担当

配布資料

資料1 都立図書館のDXとその先にあるサービス 提言(案)

第30回東京都立図書館協議会 第7回定例会

令和5年3月24日（金）

午前10時00分開会

【企画経営課長】 本日は、お忙しいところをお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから、第30期第7回東京都立図書館協議会を開会いたします。都立中央図書館管理部企画経営課長の福嶋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、配付資料の確認、情報公開、本日の次第等についてご説明をいたします。配付資料につきましては事前に事務局から送付しております。次第に配付資料一覧を載せておりますが、それらをお送りしております。不足等がございましたら、チャットにご記入いただけないでしょうか。事務局から送付いたします。

本日は、植村委員、久我委員、小林委員、五十嵐委員、古屋委員がご欠席です。本協議会は、委員の半数以上の出席をもって成立となりますため、定足数を満たしており、会は成立しております。

次に、この会の情報公開についてご説明申し上げます。当協議会におきましては、会議は原則として公開としております。会議の内容は、委員のお名前を付して議事録を作成し、都立図書館のホームページ等により公開いたします。また、記録のため本日の会につきまして、Microsoft Teamsのレコーディング機能で録画等をしております。

本日の傍聴者は、1名でございます。

続きまして、本日の次第についてご説明いたします。

本日は議事としまして、第30期東京都立図書館協議会提言についてご協議いただく予定となっております。案を確定いただいた後、議長から館長に提言を手渡していただくというのが本日の流れとなっておりますが、本日、福崎館長が急遽欠席となったため、管理部長に提言を手渡していただきます。

また、本日は第30期の最終回ですので、委員の皆様から一言頂戴したいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これからの議事進行につきましては、小田議長にお願いいたします。

【小田議長】 おはようございます。それでは、本日の議事に入ります。

先ほど事務局からも説明がございましたが、本日は第30期東京都立図書館協議会の提言につきましてご協議いただきます。

それでは、内容について、副議長の松本さん、お願いいたします。

【松本副議長】 それでは、ご説明したいと思います。

提言につきましては、皆様に繰り返しご確認いただいているところでありますので、ここでは主に第6回の定例会以降の流れ、修正の過程についてご説明させていただきたいと思っております。

1月10日に第6回図書館協議会の定例会が行われました。定例会の席上、皆様からご意見を頂きました。そのご意見を踏まえまして、私と事務局で修正案を考えまして、皆様に1月26日付のメールで事務局から提言案の確認の依頼をさせていただきました。2月10日締め切りということで、その際も幾つかご意見を頂きましたので、また改めて事務局と私で、もちろん小田議長も含めて修正の案を考えまして、それをまとめたものが本日お配りしている資料1と書かれている提言になります。

内容は今まで繰り返し皆様に見ていただいたと思っておりますので、ここでは説明は省かせていただきます。1月10日以降の修正については、主に字句の整理を中心に行っておりまして、内容面について大きな変更等は行なっておりません。

ということで、私からの説明は以上です。

【小田議長】 松本さん、ありがとうございます。

委員の皆様から何か特段の意見がこの時点でございますか。

今日ご欠席の委員から、その後何かありましたらお願いしたいと思っておりますが、事務局いかがでしょうか。

【事務局】 欠席の委員から提言について特にご意見は頂いておりません。よろしくお願いたします。

【小田議長】 承知いたしました。委員の皆様方からはこの提言につきまして特段意見がないということになります。

それでは、お諮りしたいと思います。この内容を、本日、第30期東京都立図書館協議会の提言とすることにつきまして、ご承認いただけますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【小田議長】 ありがとうございます。画面上で手が挙がっている方もいらっしゃると思いますので、ご承認いただけたものと判断いたします。ありがとうございます。

「案」を取りまして、第30期東京都立図書館協議会提言といたします。

今後の進行につきまして事務局をお願いいたします。

【企画経営課長】 小田議長、誠にありがとうございました。委員の皆様ありがとうございました。

第30期東京都立図書館協議会提言の確定を受けまして、提言を議長から管理部長に手渡していただきたいと思います。

本来であれば、東京都立中央図書館長の福崎から挨拶をするところですが、本日急遽欠席となったため、館長に代わりまして管理部長よりご挨拶いたします。

提言の手渡しを準備中ですのでお待ちください。

(提言手交)

【企画経営課長】 ただいま提言を手渡しいただきました。

繰り返しになりますが、本来でありましたら、東京都立中央図書館長の福崎からご挨拶をするところですが、本日急遽欠席になりましたため、館長に代わりまして管理部長よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

【管理部長】 中央図書館管理部長の黒田でございます。一言ご挨拶させていただきます。

協議会委員の皆様には、この間、熱心なご議論をいただきまして誠にありがとうございました。特に小田議長におかれましては、滞りなく会を進行していただき、各委員のご意見を提言にまとめていただきました。また、松本副議長におかれましては、作業部会の運営や提言執筆に関して中心的な役割をお務めいただきました。大変ご尽力いただきましたことを館を代表いたしまして心より御礼申し上げます。

第30期は新型コロナウイルス感染症により、オンライン開催がメインとなりました。そのような状況もあり、委員のほとんどの皆様と直接お会いすることができず、とても残念でございます。しかし、その一方で協議会のみならず日常でもリモートによる会議を開催することができるようになり、業務のデジタル化が進んだように感じております。

ただいま頂きました提言を基に、いつでもどこでも誰でも利用できる図書館を目指し、都立図書館ならではのサービスの実現を図るため、組織を挙げてDXを推進した取組に挑戦してまいりたいと思っております。

都立図書館について、今後ともご指導、ご支援をお願いいたしまして御礼のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

【企画経営課長】 それでは、最後に皆様から一言頂戴したいと存じます。私からお名前をお伝えしますので、よろしくお願いいたします。

最初に関根委員、お願いいたします。

【関根委員】 本日に皆様のご尽力ですばらしい提言書ができたと思って感動しながら拝見しておりました。多分日本の図書館でこういう形のDXの提言書を出せるのはここだけではないかという気もしますし、それと同時にユニバーサルデザインの考え方をここまで入れていただけるというのも、多分日本ではここがトップバッターだと思います。今後ぜひこの方針で進めていただければと思います。

実は先週1週間、アメリカで開催された「障害者とテクノロジー会議」に参加していましたが、アメリカの政府の方たちが、各省庁はどうやってアメリカの中でアクセシビリティやユニバーサルデザインを進めるかという話をものすごく熱心にされていました。その中でもDOE、いわゆる教育省の方たちも学校のユニバーサルデザイン、Universal Design for Learningといわれるエリアの中で、ライブラリーについても、非常に多く言及していました。これから図書館のユニバーサルデザインは、世界の常識として大きな流れになっていくと思います。

ヨーロッパでもEAA (European Accessibility Act) という法律が通りました。EU各国は2025年までに全てのICTの機器、サービス、モバイルやアプリ、そしてEブックをアクセシブルにしなければならないという非常に厳しい法律です。アクセシブルではないものは、企業は製造してはいけない、行政機関は購入してはいけない、輸入も輸出も禁止なのです。ですから、もし日本がアクセシブルでないものを作ったとしても、同様の法律が86年からあるアメリカももちろんですが、EU各国も一切買ってくれないという状況です。日本の産業界に対して国際競争力に関わる大きな問題が起きてきているということ、多分日本の経産省の方は誰も知らないのです。何とかしなければいけないと思って帰ってきたところです。

EPUBも「EPUB3」がWCAG (Web Content Accessibility Guidelines) の中に正式に入ってくるので、これが国際標準になるということも目前です。電子書籍はユニバーサルデザインでなければ存在できないものとなります。これからはDXが進む部分とユニバーサルデザインとが車の両輪となってライブラリーをどんどん変えていこうと思っています。今回の皆さんのこの提言は、日本を引っ張っていってくれるのではないかと考えて大変期待しています。各県、各市町のライブラリーがこの提言を真剣に読んでくれることを私としては期待します。もちろん文科省もですが、

ということで、本当にすばらしいです。どうもありがとうございました。

【企画経営課長】 関根委員、ありがとうございました。

続きまして、新居委員、お願いいたします。

【新居委員】 今回は委員に呼んでいただきまして、誠にありがとうございました。DXという全く未知の分野につきまして、一緒に議論ができ大変勉強になりました。同時に、東京都内に住む56万人の外国人の方々の図書館利用について、少なからずいろいろなことを入れていただけたことが大変うれしく思っております。

2019年に入管法改正があつて以降、日本は外国人の受入れを積極に行っていく方向に舵をきりました。それに関連し、政府は、総合的対応策として5か年の「外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ」を発表しました。その中に「生活オリエンテーションの整備」という言葉が入っています。くしくも先月、日本に住むフィリピン人の方々がコミュニティを通じてその生活オリエンテーションのハンドブックを作られました。そのページの最初のところに「困ったことがあれば図書館に行って聞いてみましょう」という言葉が入っています。これはとても大きな言葉ではないかと私は思っています。そこに人がいて誰でもが利用できる図書館においてDXが進み、多言語対応が進んでいく中で、多くの都民の皆様、そして多くの方々が利用できる、誰にとっても優しい図書館になるとよいと思います。

加えて、来年度、恐らく図書館の方々が使いやすい「やさしい日本語」の本を出版する予定になっています。DXが進んでその使いやすさとともに、そこで働く方々が「やさしい日本語」を使って、それも外国人だけではなく、子どもさんや障害者の方や高齢者にも優しい言葉遣いでサービスをしていただけたら、よりよいと思っております。

今回、参加させていただきましてを本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。

以上です。

【企画経営課長】 新居委員、ありがとうございました。

それでは、続きまして和気委員、お願いできますでしょうか。

【和気委員】 このたびは大変貴重な機会に参加させていただきまして、本当にありがとうございました。ほかの委員からもご発言がありましたように、本当に素晴らしい提言にまとまったということを今改めて提言を見ながら感じているところです。

この図書館協議会の中で、都立図書館の中だけでなく、ステークホルダーとともに図書館をつくっていくそのプロセスをまさに実感しました。特に提言の中でも、ステークホルダーとの関係はかなり具体的に提言している点も本当に素晴らしいなと今改めて思っています。

例えば、資料のデジタル化に関して出版界への働きかけであるとか、多言語電子図書のベンダーとの契約についてであるとか学校との関係であるというところに、具体的に例示しながら提言しているというところに、東京都に限らず他の自治体にも非常に参考になるような提言にまとまったと思っています。

本当に貴重な機会に参加させていただきました。本当にありがとうございました。

以上です。

【企画経営課長】 和気委員、ありがとうございました。

それでは、続きまして赤羽委員、お願いいたします。

【赤羽委員】 本当にいろいろお世話になりました。公募で入れていただきまして、最初はカタカナの専門用語が飛び交っていて、ついて行けるかなと心配になったこともありました。とても勉強させていただきました。特に公共性、ユニバーサルデザインということについて、いろいろな委員の方がたくさんの意見を持っていることを知って、とても刺激されました。本当に勉強になったと思います。

私は児童書の作家をやっているのですが、その視点から言うと、常に収益が絡むことをしていますので、なかなか意見が難しいなと思ったことも事実でありました。ただ、この協議会が始まる時は、電子図書がぼつぼつだったものが、私のほとんどの本も電子図書になり、収益も入ってくるようになり、その速さにとても驚いております。なので、ここで提言したDXについても早く進めていってもらえるのではないかと考えております。

最初から最後まで図書館は作家や出版社と協力して、より豊かな出版の世界をつくって行ってほしいと思って私は言っていたのですが、提言の中で出版社に働きかけるということが盛り込まれていて、それはとてもよかったと思って気に入っております。ほかの事ももちろんそうなのですが。

また、新居委員から外国人の方の立場のことも聞いて、これも大変刺激になり勉強になったと思っています。

最後に、小田議長、松本さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

【企画経営課長】 赤羽委員、ありがとうございました。

続きまして、橘委員、お願いできますでしょうか。

【橘委員】 2年間、どうもありがとうございました。私は公募委員として今回協議会に参加させていただきましたが、最初に図書館という場所が一体どういう場所なのだろうということを非常に考えました。そのときに、年齢や性別、職業、また外国語を話す日本語を

話せない方とかいろいろな方が同時に利用できる公共の場所ということで、非常に貴重な空間を提供していると思いました。

今回、DXを推進していくということでの提言なのですが、このDXを推進していくことで、今、その貴重な価値がますます時間や距離に制約されずにすばらしい価値をもたらしていくものだと信じております。

最近、都心でも書店がなくなっていく状況にありまして、結構本好きな人にとっては、難民のような形になっている環境があります。その中で図書館というのは、情報や本を提供する場所としてますます貴重な場所になっていくのではないかと思います。

今回、公共とかユニバーサルデザインとかいろいろなことについて考えさせられるいい機会を頂きました。本当にありがとうございました。

この提言がこれから実践されて、ますますいいものになっていくことを期待しております。どうもお世話になりました。ありがとうございました。

【企画経営課長】 橘委員、ありがとうございました。

今日ご欠席の植村委員からメッセージをお預かりしていますので、私のほうで代読させていただきます。

2年間大変お世話になりました。私は取り留めもない感想ばかり述べておりましたが、小田議長、松本副議長のご指導・ご尽力、委員の皆様、さらに事務局の支えがあって充実した内容の提案書としてまとまったと思っております。

DXという新しい視点で図書館の利便性向上とサービスを見直すという今回の作業でしたが、私も皆様との議論の中で刺激を受け、また図書館サービスの変化について大変勉強になりました。

一方、第30期定例会が始まったときは、話題にもなっていなかったChatGPTに代表されるAIチャットボットが知識体系のありように激震をもたらしています。その影響は最も重要な図書館サービスの1つであり、司書が対応できる最後のとりでであるレファレンスにも及ぶかと思っております。

今後どのように図書館がAIを利用し、知のサービスを再構築していくのか積極的に検討していかないと、逆に飲み込まれかねない大きな波が外から来たと思っております。次期定例会での検討を期待しております。

以上でございます。

それでは、続きまして松本副議長、お願いいたします。

【松本副議長】 今回、副議長として取りまとめに関わらせていただきました。作業部会では本当に多くのご意見を頂きました。そのご意見は非常に勉強になりましたし、刺激を受けました。皆さんどうもありがとうございました。

デジタル化にはDXという領域、進化といいましょうか、変化が非常に激しいということはあると思います。ここで提言した内容についても、あと数年すれば陳腐化していくかもしれません。ぜひこの提言については、そういったことも踏まえながら図書館として受け止めていただきたいと思います。

またデジタル化、あるいはDXというのは、これまでの図書館と利用者との関係というものを変えていくと思いますし、あるいは都立図書館と都内の図書館との関係も変えていくのかなと思います。

先ほど植村委員からChatGPTの話がありましたが、人工知能が現実の社会で活用されるようになってくるといのは、利用者との関係の面で非常に大きな影響が出てくるのだらうと思います。

あと、図書館との関係で言いますと、例えば長野県などでは、電子図書館を県内で全県的に県民に対して提供するというのも始まっているかと思います。そういった利用者との関係、あるいは図書館との関係について変化していく中で、都立図書館としてぜひいろいろ積極的な取組を今後期待したいと考えております。

これから変わっていく社会の中で、いつでもどこでも誰でも利用できる、そういった図書館をつくっていただければと思います。

以上です。

【企画経営課長】 松本副議長、ありがとうございました。

それでは、小田議長、お願いいたします。

【小田議長】 お時間を頂きまして、議長として、一委員としてお話をさせていただければと思います。

この2年間、この第30期の協議会を取りまとめるに当たりまして、委員の皆様方にはいろいろな面でご協力いただきましてありがとうございました。また事務局にもいろいろと進め方について支援していただきましたことを心から感謝申し上げます。とりわけ松本さん、ありがとうございました。

過去の提言を振り返ってみると、そしてまた、それが都立図書館の活動、運営、そういったものとどういうふうに関係しているかを関連づけてみたところ、提言に盛り込まれた内容が

すぐに、あるいは、ものによっては1年、2年後に施策として実行されている例が数多くあることを確認しています。

ということは、言い方を変えれば、この協議会の提言は、実際の都立図書館の活動に結びついている、役に立っているものがあることになります。その意味で協議会の役割が大きい、あるいはその責任の重さがあると受け止めております。

今回の第30期の提言につきましても、都立図書館で必ずや実施に向けていろいろとまた検討していただけるものと信じております。その姿をこの協議会を離れたところからもまた見守っていききたいと私自身は思っております。本当にありがとうございました。

以上が議長としてということなのですが、ちょっと格好よく外国風に各委員のお名前を呼んでお礼とさせていただきます。委員の皆様ありがとうございました。植村さん、久我さん、小林さん、五十嵐さん、古屋さん、関根さん、新居さん、和気さん、赤羽さん、橘さん、松本さん、本当にありがとうございました。

その上で、一委員として一言触れさせていただきますと、私自身はこの都立図書館の協議会、今期で4期務めております。8年間務めておりますので、規則の関係からもここで任を離れることになるはずです。

そうした中で、先ほど申し上げましたように、その任を離れてもこの提言がどう生かされていくのかはこれからも見守っていききたいと思います。また別な形で何かお力になれることがあれば、それはもちろん喜んでと思っています。

何で喜んでとなるかといいますと、私の図書館関係の人生は、実は都立図書館で始まったといつも申し上げております。私、東京都の八王子市に生まれまして、子どもの頃にお寺の境内にあった八王子の都立図書館を利用したところから、図書館なるものの存在に触れました。思い起こせば今から50数年、半世紀もっと前になるところです。そして、その後も高校の頃は、都立の立川の図書館、社会教育会館にあった図書館を使ってとなりますので、自分のいろいろな考え方を形成する時期に都立図書館があったという関係があります。それゆえに都立図書館が大好きです。したがって、その大好きな図書館をこれからも見守って支えていければ、それは私の人生にとっても喜びであるということになります。本当にどうもありがとうございました。

この協議会の委員として活動できたこと、本当に私も幸せでした。これからもどうぞよろしく願いいたします。

以上となります。

【企画経営課長】 小田議長、ありがとうございました。

委員の皆様、貴重なお言葉を頂戴しましてありがとうございました。本日頂きました提言の実現に向けまして、これから鋭意取り組んでまいります。

それでは、第30期東京都立図書館協議会をこれにて閉会いたします。皆様、2年間どうもありがとうございました。

以上で終了とさせていただきます。ありがとうございました。

午前10時36分閉会